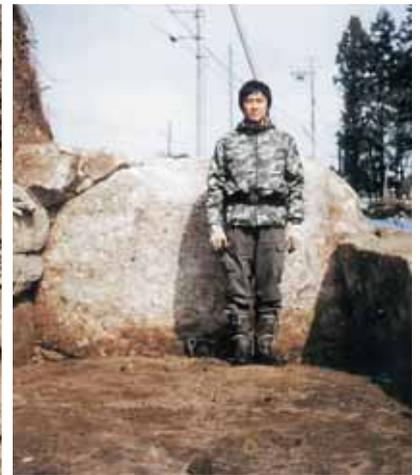


栃木県埋蔵文化財センターだより

やまかいどう

No.
33
2003.4

特集 平成14年度栃木県発掘速報



▲塚原2号墳の奥壁の石材
幅3m、高さ1.8m、厚さ50cmの
大きさがあります。

◀塚原2号墳の横穴式石室
奥から入口の方向を見たところ。

姿を現した横穴式石室

河内町塚原古墳群(塚原2号墳)

前号でご紹介しました河内町の塚原古墳群では、その後、1号墳・2号墳の石室内部の発掘を進め、石室の全体の形や副葬品(死者と一緒に納められた刀などの品々)の様子が明らかになりました。

1号墳では、墳丘の中央で、横穴式石室が発見されました。天井石は全て抜き取られていましたが、玄室(死者を安置した部屋)の壁や、その入り口を板石で塞いだ状態がよく残っていました。玄室は長さ5.4mで、両側の壁は中央で外側に膨らみ、最大幅は1.7mあります。壁の高さは最も保存の良い所で1.8mあり、ほぼこの高さに天井石が設置されていたと考えられます。石材は、付近の山で産出する柔らかい砂岩の割石を用いており、粘土で裏側を固定しながら積み上げています。

床面には、大人の握り拳よりやや小さい川原石が敷き詰めてありました。この上から、金メッキされた馬の飾り金具、鉄製の鍬、長さ70cmの鉄の直刀(真っ直ぐな刀)などが出土しました。

天井石が残っていた2号墳の石室(上の写真)は、発掘してみると、むしろ1号墳よりも激しく壊されていました。玄室の形は1号墳と同様に両側の壁が中央で外側に膨らみますが、全長7m、最大幅2.5mあり、1号墳に比べてかなり大きいことがわかりました。壁にはブロック状に割った大型の石材が多数使用され、特に奥壁は重さ5トン以上の巨大な一枚石でした。これは、天井石より大きいものです。川原石を敷きつめた床面からは、馬の飾り金具の破片、鉄の鍬、ガラス小玉や管玉(首飾りなどに用いる筒状の玉)などの装飾品が発見されました。

《 も く じ 》

◎特集 平成14年度 栃木県発掘速報

- 栃木県内発掘調査一覧 ……………1
- 県内発掘調査の動向  ……………2
- 埋蔵文化財センターが行った発掘調査から  ……3
- 市町村教育委員会が行った発掘調査から  ……8

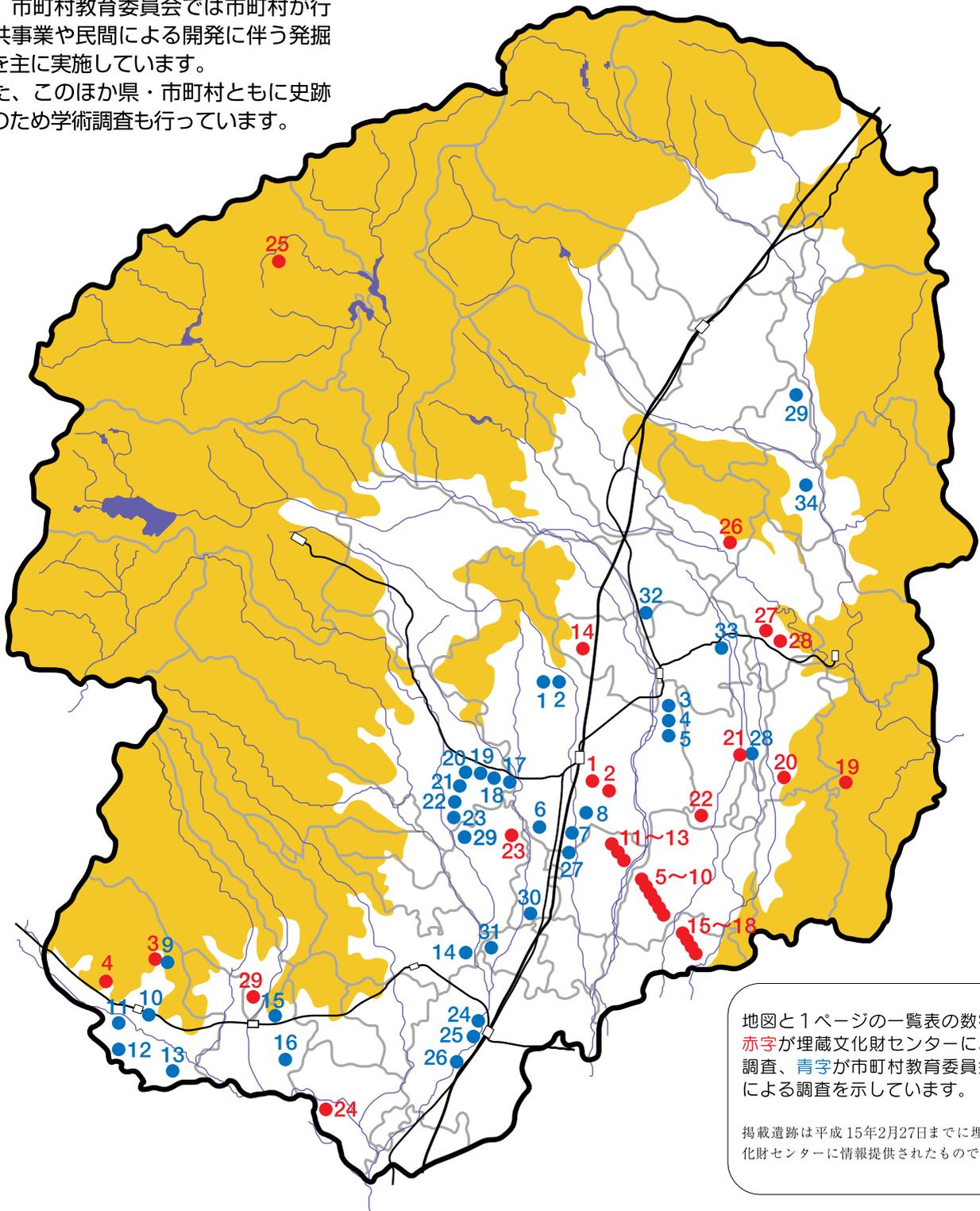
- 発掘調査現地説明会資料 ……………13
西赤堀遺跡
- ◎発掘調査報告会 ……………17
- 「平成15年度巡回展 栃木の遺跡」 ……18

埋蔵文化財センターでは、国や県による道路建設、工業団地造成などの公共工事に伴う事前の発掘調査を行っており、一方、市町村教育委員会では市町村が行う公共事業や民間による開発に伴う発掘調査を主に実施しています。

また、このほか県・市町村ともに史跡整備のため学術調査も行っています。

 マークは平成15年度巡回展「栃木の遺跡—最近の発掘調査の成果から」関連の項です。

 マークは平成14年度「栃木県発掘調査報告会」関連の項目です。



地図と1ページの一覧表の数字は赤字が埋蔵文化財センターによる調査、青字が市町村教育委員会等による調査を示しています。

掲載遺跡は平成15年2月27日までに埋蔵文化財センターに情報提供されたものです。

平成14年度 栃木県内発掘調査一覧

市町村教育委員会が行った発掘調査

No.	遺跡名	市町村名	主な時代
1	前田遺跡	宇都宮市	古墳時代
2	瓦塚古墳群	〃	古墳時代
3	不動山古墳群	〃	古墳時代
4	薬師堂遺跡	〃	中世～近世
5	竹下遺跡	〃	縄文時代
6	岡田山遺跡	〃	古墳時代～平安時代
7	上神主・茂原遺跡	〃	奈良・平安時代
8	権現山遺跡	〃	古墳時代～平安時代
9	足利萬古窯跡	足利市	奈良・平安時代
10	国府野遺跡	〃	奈良・平安時代
11	和泉遺跡	〃	弥生時代～平安時代
12	藤本観音山古墳	〃	古墳時代
13	小曾根古墳群2号墳	〃	古墳時代
14	下野国府跡	栃木市	奈良・平安時代
15	住宅団地内遺跡	佐野市	縄文時代
16	四ッ道北遺跡	〃	縄文時代
17	上猪内遺跡	鹿沼市	縄文・古墳時代～平安時代

(平成15年2月27日現在 県文化財課へ届出済みのものである。)

埋蔵文化財センターが行った発掘調査

No.	遺跡名	市町村名	主な時代
1	砂田遺跡8区～15区	宇都宮市	縄文～近世
2	杉村遺跡18区	〃	縄文～奈良・平安時代
3	神畑遺跡	足利市	縄文時代
4	山前遺跡	〃	不明
5	下陰遺跡	真岡市	縄文、古墳、奈良・平安、中世
6	山王遺跡	〃	不明
7	原北遺跡	〃	古墳～平安時代
8	茅堤北遺跡	〃	古墳～平安時代
9	伊勢崎Ⅲ遺跡	〃	中世
10	伊勢崎Ⅳ遺跡	〃	不明
11	西赤堀遺跡	上三川町	古墳～奈良・平安時代
12	高鳥遺跡	〃	古墳～奈良・平安時代
13	五霊遺跡	〃	古墳～奈良・平安時代
14	塚原古墳群	河内町	古墳時代
15	峰高前遺跡	二宮町	古墳～奈良・平安時代

No.	遺跡名	市町村名	主な時代
18	西茂呂北遺跡・西茂呂古墳群	鹿沼市	古墳時代
19	明神前遺跡	〃	縄文時代
20	宝龍内遺跡	〃	縄文・奈良・平安時代
21	段ノ浦古墳群・段ノ浦遺跡	〃	古墳時代
22	榊山遺跡	〃	縄文時代
23	谷橋遺跡	〃	縄文時代
24	祇園城跡	小山市	中世
25	外城遺跡	〃	縄文時代
26	千駄塚古墳	〃	古墳時代
27	上神主・茂原遺跡	上三川町	奈良・平安時代
28	代町遺跡	芳賀町	奈良・平安時代
29	桃花原古墳	壬生町	古墳時代
30	東林遺跡	石橋町	縄文時代
31	下野国分寺跡	国分寺町	奈良・平安時代
32	堂ツ原遺跡	氏家町	縄文時代
33	西続橋遺跡	高根沢町	縄文・奈良・平安時代
34	三輪仲町遺跡	小川町	縄文・古墳時代

No.	遺跡名	市町村名	主な時代
16	西物井遺跡	二宮町	古墳～奈良・平安時代
17	曲田遺跡	〃	古墳～平安時代
18	馬場先遺跡	〃	古墳～平安時代
19	弾正遺跡	茂木町	中・近世
20	彦七新田遺跡	市貝町	古墳～平安時代
21	赤坂道上北遺跡	芳賀町	縄文時代
22	上り戸遺跡	〃	縄文～奈良・平安時代
23	霞内西遺跡	壬生町	古墳時代
24	藤岡神社遺跡	藤岡町	縄文時代
25	湯西川ダム関連遺跡	栗山村	縄文、平安、近世
26	切上遺跡 他9遺跡(県圃確認)	喜連川町	縄文、古墳～奈良・平安時代
27	北原遺跡 他11遺跡(県圃確認)	南那須町	縄文、古墳～奈良・平安時代
28	長者ヶ平遺跡	〃	奈良時代
29	吉水遺跡	田沼町	不明

平成14年度県内発掘調査の動向

県・市町村(民間を含む)ともに大規模な面積の調査は少なくなっている。大規模な開発の減少と同軌な現象であろう。

県埋文センターにおいては新4号国道の東地区の上三川町、真岡市、二宮町での北関東自動車道路の発掘が盛況を迎えている。調査の進捗もほぼ計画に沿う状況にある。西赤堀遺跡(上三川町)では古代の集落(古墳～奈良・平安)が道路幅全面(約60m)、長さ220mの範囲に約70軒の住居址が確認された。また、同遺跡8世紀前半期の376号住居址からは5世紀後半～6世紀前半期の変形蕨手文鏡が出土した。五霊遺跡(集落址・上三川町)では6世紀代の大形住居2軒(11m台)が近接して確認された。この遺跡は鬼怒川右岸の砂質台地に造られている。

北関東自動車道路の調査は本年度は8遺跡の本調査、7カ所で確認調査を実施している。

テクノポリス開発関係の発掘は後半戦に入り、調査が終了した地区に建物の建築が開始された。発掘は開発地区の最北端部の外環状線近くの砂田地区(縄文～近世)に実施した。

県土木関係では芳賀バイパスの彦七新田(市貝町)では古そうな陥し穴と古代集落が確認され、来年もこの東部分の調査を継続する。この西に近接する赤坂道上(芳賀町)は縄文時代中期の遺跡である。塚原古墳群(河内町)では円墳2基を調査した。現道建設の折に大分削平を受け、内部主体の遺存の望みが小さいと思われたが凝灰岩積石造りの中規模程度(長さ約7m)の横穴式石室を調査することができた。本古墳群は西方山頂の高山古墳(前方後円墳)を主墳とした東方の裾部に数基の円墳群を形成しているが原形を止めるものはないようである。高山古墳を含めても埴輪を持つものはない。2号墳からは直刀と馬具の部分が出土している。



▲塚原2号墳の横穴式石室(東から)

長者ヶ平遺跡はコの字形建物配置の西方から南方にかけて倉庫風の掘建柱建物跡がトレンチに確認され、これらの建物を区画する南面溝と北面溝も確認されている。溝の間隔は約210mあり、2町を区画する官衙施設と推察される。東西長など施設の全体像や確証的な性格については今後の課題とされる。北側には東山道が(東西)、西に接してタツ街道が(南北)通過する遺跡の立地は、この遺跡が交通の要衝に所在したことは確実で、こうした要件は、この遺跡の性格を考える大きなポイントになることと思われる。

市町村においては、宇都宮市・足利市が多いのは変わらない傾向である。今年度は鹿沼市の届け件数の多さが目立つが、内容は民間開発による確認調査と聞いている。殆どは盛土による指導がなされている。専門の担当者配置による成果である。

時期別に見てみよう。縄文時代では宇都宮市不動山遺跡が注目される。中期～後期にかけての祭祀を伴う拠点



▲板戸不動山遺跡(宇都宮市教育委員会提供)

的集落で、そういう性格では国指定の根古谷台遺跡に類似している。

古墳では足利市の藤本観音山古墳がある。

今年度は以前

から継続されている前方後方墳南側部の周濠を調査し、墓前祭をしたような遺構が確認された。今後も保存のための調査が続くようである。

桃花原古墳(壬生町)は石室前面の墓道の石積みが築かれた状況が明確になった。現地説明会も盛況であった。これも保存を考えているようである。

歴史時代では宇都宮市と上三川町にまたがる上神主・茂原遺跡を挙げなければならない。一昨年正倉院、昨年政庁が確認され、いよいよ史跡指定に弾みがついた感がある。今年度は正倉院の北への広がり、北面の施設区画溝の確認を目的としたが、北面溝は確認できなかった。正倉群の範囲は確認できたようである。正倉の総数は50棟であり、柱筋は皆ほぼ同じ方位を示し大きな時期の差はないようである。7世紀末から開始されている。国指定史跡申請を準備進行中である。

また、国指定史跡の飛山城(宇都宮市)の整備が進んでいる。烽屋の復元もされる予定である。

(調査部長 大金 宣亮)

現地説明会資料

発掘調査の途中や終了時には現地で説明会を行うことがあります。調査担当者が直接案内するほか、資料の配付や出土品の展示も行います。13ページから16ページは、平成14年度に遺跡で開催した際の「現地説明会資料」です。

埋蔵文化財センターが行った発掘調査から

高島遺跡(上三川町)

高島遺跡群は、宇都宮市との境界に近い上三川町にしふざかし西汗地内にあります。鬼怒川の西側に「岡本台地」と呼ばれる南北に細長い台地がありますが、その東の端に位置しています。標高は約80mで、江川(鬼怒川の支流)が形成した低地を挟んだ東側と西側が遺跡の範囲となっています。

この遺跡内に北関東自動車道高崎水戸線(仮称)が建設される事になり、工事に先立って平成14年から発掘調査を行いました。

江川の形成した低地の西側は、おもに古墳時代後期から平安時代にかけての集落跡であることが分かりました。



竪穴建物跡(江川の低地の西側)

竪穴建物跡10軒、掘立柱建物跡11棟、陥し穴状の土坑5基をはじめ、数多くのピット(柱の穴跡と考えられる小さな穴)を発見しました。また、遺跡の西端からは縄文時代の貯蔵穴も見つかりました。

低地の東側は「高島城跡」と呼ばれていました。今回は、江川の西側にある島のような部分とその直下の低地を調査しました。かつて低地部分を流れていた江川は、昭和60年代の河川改修工事で、現在の位置に流れを変えました。したがって、今回調査した島状の部分は、本来は東側の台地と繋がっており、その突端部に当たっていたのです。



同右アップ



竪穴建物跡(江川の低地の東側)

台地の上面からは、古墳時代後期から平安時代にかけての竪穴建物跡5軒が発見されました。形が不揃いで、竈も簡略な作りでした。したがって、低地の西側のような安定した集落ではなく、短期間生活を営んだ跡だったのかもしれませんが。

今回の調査で、台地の縁辺部が、人力によってほぼ垂直に切り落とされたことが分かりました。更に南辺は、階段状にし、途中に平坦面を作り出していました。低地部分の調査では、埋め戻された川の跡が、台地直下とその外側に2条発見されました。台地直下の川跡の底は、粘土質のローム層でしたが、外側の川底には砂礫層がみられました。このことから砂礫層を形成した自然の川の流れを、人工的に台地の直下に付け替えたことが想定できました。また、両川跡の間には、台地部分の地山の鹿沼軽石層がみられました。これによって、川の付け替えに際して、台地を大幅に削ったことも分かりました。台地上からは中世の方形竪穴1基が発見されており、この部分が中世の城跡の一部であったことが、ほぼ証明できました。



台地の縁辺を削平したところ(北西から)

東谷中島地区遺跡群(宇都宮市) 

東谷中島地区遺跡群は、都市基盤整備公団が実施する東谷中島地区土地区画整理事業地内にあります。ここは宇都宮市と上三川町との境目にある南北2.5km、東西1kmにもおよぶ広大な土地で、この中に多数の遺跡があります。発掘調査は平成6年度から続けていて、今年度は主に事業地の北西隅にある砂田遺跡の調査を行いました。遺跡は田川左岸の台地上にあり、遺跡の中央には南に向かって流れる無名瀬川という小さな河川があります。台地上とは言ってもそれほど高いところではないので、台風や大雨の後などには調査しているところ

ろのほとんどが水に浸かってしまうこともありました。

今年度砂田遺跡で調査したのは工事の関係などで分けられた8つの地区(8区~15区)で、面積は合計約13,000m²です。見つかった遺構は竪穴住居跡59軒、掘立柱建物跡21棟、溝28条、井戸5基、土坑179基など、遺物は土師器や須恵器といった土器を中心に収納箱約200箱分あります。土器以外には、鎌などの鉄製品やガラス製のビーズ玉なども出土しました。

調査した竪穴住居跡を見てみると、古墳時代の住居跡が36軒、奈良~平安時代の住居跡が17軒と古墳時代の方が多く確認されています。また、古墳時代の中でも後期よりも中期のものがより多いようです。砂田遺跡はこれまで奈良~平安時代中心の集落跡と考えられていましたから、今回の調査によって古墳時代中期から続く集落跡であることが分かったことは成果の一つと言えるでしょう。

また、当時住居跡を作るために土を掘った道具の形が、時代ごとに異なっていることも今回判明しました。これは砂田遺跡8区にある古墳時代と奈良時代の住居跡を調査した際、住居跡を掘ったときについた道具のあとから分かったものです。この地区の住居跡はとても硬い砂混じりの粘土層を掘って作られていますから、おそらくこのために当時の道具のあとが良い状態で残ったのでしょう。道具のあとをよく観察すると、古墳時代中期の住居跡では刃先には丸味がほとんどなく、道具の幅は11~12cmです。一方、奈良時代の道具の刃先は「U」の形になっていて、幅は16~17cmでした。幅が狭く先の平らなスコップから幅が広く先の丸いスコップへ、土を掘る道具の形が変化し



砂田遺跡13区全景(西上空から)



竪穴住居跡(8区SI-4)



奈良時代住居跡の土掘り道具のあと(8区SI-4)



古墳時代住居跡の土掘り道具のあと(8区SI-1)

ていることが分かります。

新しい時代の遺構としては、宇都宮外環状線に近い砂田遺跡10区で見つかった、江戸時代頃に作られたと思われる溝があります。溝は2本一組になって平行して掘られています。地図を見てみると調査前まではちょうど溝と溝の間にあたる部分に細い道路があったことが記されています。調査の結果、溝が埋まってしまってから何度か道路が作られたことが分かりましたから、江戸時代の土地の区画が現代まで受け継がれていたということになるでしょう。



砂田遺跡13区の溝(東から)

神畑遺跡(足利市)

神畑遺跡はJR両毛線足利駅から約4.5km北にあります。足尾山地から続く山に挟まれた南北に長い台地に位置し、遺跡の西側約300mには名草川が流れています。この川は土砂の堆積によって水位が上がり、天井川のようになっています。このため、調査区内でも水がわき出していて、常にポンプによって汲み上げないとプールのようになってしまいます。

調査は県道飛駒足利線改築工事に先立って行われましたが、周辺では足利市教育委員会によって平成11年度から遺跡範囲確認のための調査が行われています。この調査では大型住居を含めて、竪穴住居跡が10軒発見されています。これらの住居は何れも縄文時代前期(約7,000年前)に作られたものです。今回、私どもの調査でも同じ時期の竪穴住居跡が5軒発見されました。このうち1軒は東西8m、南北6mの長方形の大型住居です。このような大型住居は縄文時代前期に



上空から見た神畑遺跡(南から)

東北地方から北関東にかけて多く見られる住居です。遺物としては土器の他に、シカやイノシシなどを捕まえるために用いた矢の先端に装着した石鏃、木の実をすりつぶすために用いた石皿や磨石、穴を掘るために用いた打製石斧、木を切るために用いた磨製石斧などが発見されました。



水没した大型住居跡



大型住居跡の調査風景

赤坂道上北遺跡(芳賀町)

赤坂道上北遺跡は、西方に五行川と祖母井の町並みが見下ろせる台地上にあります。この度の発掘調査は、主要地方道宇都宮茂木線建設に先立ち、3,300m²を対象として実施しました。調査の結果、竪穴住居9軒、土坑240基、小穴270基などからなる縄文時代中期後半のムラの跡が発見されました。遺物は、深鉢、浅鉢、ミニチュア、器台などの縄文土器のほか、打製石斧、磨製石斧、石鏃、石錘、石皿、すり石、石棒などの石器類があります。

竪穴住居は直径4m、柱穴を4本、中央やや南ないし南西寄りに石囲炉を持つものが多いようです。土坑は大きく3種類の形態が見られます。一つは袋状土坑ふくろじょうといって、入り口が狭く、底部が広い土坑です。二つめは円筒形の土坑、三つめは平面形が楕円形で、浅い皿状の土坑です。これらの土坑の中には、木の実などの貯蔵穴や、墓坑と考えられるものもあります。

今後は、これらの土坑の用途、土坑と住居との関係、また、ムラ全体の様子を解明したいと思います。



竪穴住居跡と周辺の群在する土坑



多量の土器や石器が出土した土坑



調査区全景

彦七新田遺跡(市貝町)

彦七新田遺跡は、小貝川とその支流である大川に挟まれた、南北に延びる丘陵の上に位置します。芳賀工業団地から市貝町役場の北側を東西につなぐ、バイパスを建設するために発掘調査したものです。

今年は調査2年目にあたりますが、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の遺構が発見されました。

陥し穴状土坑は、縄文時代の初め頃につくられたと考えています。動物を捕るために掘られたものでしょうか。下の写真は、断面を調べるために手前を大きく掘って撮りました。実際の形は、上から見ると楕円形で、



陥し穴状土坑(南から)

断面は下へ行くほど狭くなるV字形をしています。今回調査では9基見つかっています。

掘立柱建物は、地面に柱穴を掘って柱を立てた平地式の建物です。下の写真は、9本柱のあった場所に作業員さんが立って撮ったものです。すぐ近くの竪穴式住居(地面を掘り下げて床面とし、上を屋根でおおったタイプの住居)から、「寺」と書かれた土器のかけらが出土しました。寺で使われたものとしたら、掘立柱建物はお堂だったのでしょうか?

来年も更に東側を発掘する予定です。



掘立柱建物(南から)

曲田遺跡(二宮町)

曲田遺跡は、二宮町高田の五行川と小貝川に挟まれた低地にあります。北東約1kmには有名な専修寺があります。遺跡の名前は、もともとこの辺りの田んぼが曲がりくねって作られていた土地であることから付けられました。今では、平らで碁盤目のような田んぼですが、発掘調査からも、もともとはかなり複雑な地形であったことが推定されます。

この遺跡は、土器がたくさん拾える場所として古くから知られていました。近年行われた確認調査によって、かなり広い範囲にわたる遺跡であることが分かりましたが、面的に広げての発掘調査は今回が初めてとなります。調査は1月から本格的に開始し、3月まで行い

ました。調査の終盤は排水ポンプを使つての低地の調査が主体で、水との闘いとなりました。

調査の結果、古墳時代中期の住居跡6軒の他、溝や土坑等もあります。また、溝や谷へ向かう斜面からは、多くの土師器片とともに、石製模造品が合計10点ほど見つかっています。ここで出土した石製模造品には、剣形・勾玉状・有孔円盤状があり、剣形の中にはかなり大きなものもあります。

これらの石製模造品は、古墳時代中期に、この集落の中で執り行われた祭祀とその意味を考える上で貴重な資料となるでしょう。



曲田遺跡全景



石製模造品出土状況

市町村教育委員会が行った発掘調査から

板戸不動山遺跡(宇都宮市)

本調査は、板戸町最終処分場建設に先立ち、開発地内に登録遺跡である不動山古墳群が所在することから実施したものです。調査の結果、古墳群の他に縄文時代の集落跡が確認できました。

縄文時代の集落跡は、中央に土坑が配置され、約100軒の竪穴住居跡がそれを取り囲む、所謂「環状集落」です。その範囲は直径約100mにおよびます。

土坑は、深さが深いものと浅いものが約千基確認できました。前者は貯蔵のためのもので「袋状土坑」と呼ばれるもので、後者は石を並べたものや、土器が伏せて置かれたものがあることから、多くはお墓として使われたものと考えられます。

竪穴住居跡は、平面形が、直径4~5mの円形で、壁際に柱穴を配し、中央に石囲炉が設けられています。これらの竪穴住居跡は、3~5軒が重なって見つかることから、1つのグループ(家族か?)が何世代かにわたり、同じ場所に住居を築いたものと考えられます。また、住居内の炉は石囲炉ですが、中でも石囲炉のそばに石棒状の石を立てるものも多く見られ、この遺跡の特徴

と言えます。

遺物は、縄文土器、耳栓、勾玉、石棒、石刀、石皿、磨石、蜂巢石、打製石斧、磨製石斧、石鏃、石錐等が出土していますが、石錘は出土していません。中でも石棒や石刀が1~2個出土する住居跡が数軒確認できました。

これらの出土した遺物から、この集落跡の時期は、縄文時代中期後半の加曾利E式の段階のものと考えられます。

古墳は、3基確認できました。一番小さな石室をもつ古墳は、周溝が確認できませんでしたが、その他の2つの古墳は周溝が円形に回っていることから円墳と考えられます。埋葬施設は、横穴式石室で、側壁や床面に川原石を使っています。また、石室の平面形は玄室部分が胴張り形で、5号と1453号の前庭部には深い土坑が伴います。

これらの古墳は、出土した須恵器から7世紀を前後する時期のものと考えられます。

(宇都宮市教育委員会 今平 利幸)



土器の上ののる蜂巢石



重なり合う住居跡



複式炉



立石を伴う石囲炉

すけとやま 助戸山3号墳(足利市)

助戸山3号墳は、JR足利駅の北東、助戸3丁目定年寺境内にあり、標高約60mの丘陵鞍部に立地しています。古墳の範囲と内容を確認するために発掘調査を行いました。

調査の結果、2段につくられた墳長27.5mの前方後円墳であることが確認されました。墳丘は、斜面部に葦石を有し、2段目テラスには円筒埴輪列がめぐることが確認されました。

円筒埴輪は50cmから90cm間隔で並べられていました。前方部南西隅では、円筒埴輪列の間から、須恵器の大甕が潰れた状態で出土しました。また南側くびれ部からは後円部墳頂から転落したと思われる一回り大きな4条5段構成の円筒埴輪が出土しました。

遺体を埋葬した横穴式石室は、石材の抜き取りにより破壊されていましたが、床面付近は幸い破壊を免れ、平面形が無袖型胴張り形であること、玄室が間仕切り石により区画されていることが確認されました。玄室

内からは直刀3振、馬具(轡)1対、鉄鏃多数、金銅製耳環9個、ガラス製勾玉1個、ガラス製小玉200個以上、須恵器・提瓶1個など多数の副葬品が出土しました。また人骨は、玄室内の間仕切り石を中心に東西の壁際にまとめられたような状態で出土し、追葬時に整理されたものと思われます。耳環の数から5人以上埋葬されていたようです。

出土遺物や人骨の出土状況から、この古墳は6世紀後半に築造され、6世紀末ないし7世紀初めまで追葬が行われていたようです。古墳時代後期には、足利の市街地周辺の丘陵上には、小首長墓と推定される足利公園3号墳や機神山山頂古墳など墳長30mクラスの前方後円墳が造営されます。助戸山3号墳の被葬者も、古墳の立地、規模、副葬品から助戸を中心とする地域を統括する小首長とその家族と推定されます。

6世紀末から7世紀初頭になると全国的に首長墓は前方後円墳から大型円墳へと変化します。小首長墓である助戸山3号墳もこうした変化の中での最終末期の前方後円墳と考えられます。

(足利市教育委員会 齋藤 和行)



助戸山3号墳全景



玄室内・直刀・提瓶出土状況



前方部北西隅・葦石・埴輪列出土状況



南側くびれ部・4条5段埴輪出土状況



石室全景(北より)

特集

とうかはら

桃花原古墳(壬生町)

桃花原古墳は、黒川東岸の台地上に造られた直径約63mの円墳です。

桃花原古墳がある町北西部の羽生田地区には、明治年間に発掘調査が行われた茶白山古墳(国指定史跡・前方後円墳)や近年、大型の家形埴輪が出土した富士山古墳(県指定史跡・円墳)などがあり、古代下毛野国を代表する大型古墳が集中しています。

本年度の桃花原古墳の発掘調査は、前年度に確認された「前庭部」の規模と構造を確認する調査を行いました。「前庭部」は死者を埋葬する際の儀式等が行われた場所と考えられています。

「前庭部」は、墳丘の南側を「コ」の字状に切り込み造られています。表面は河原石でおおわれており、石室へと通じる通路部と、その両側にある一段高い平坦部とに分かれます。

規模は全長8m、幅が約10mあります。「前庭」に使われている河原石も、平坦部には偏平な石、通路の壁には大きめの細長い石、両側の斜面には小さめの細長い石を、場所により使い分けていることがわかりました。

今年度は、東側の平坦面から金銅張の馬具(杏葉きょうよう)が完全な形で出土しています。

この他、石室の盗掘の跡から、凝灰岩でつくられた五輪塔の一部が出土しました。「前庭」の埋土に見られた、砕かれた多くの凝灰岩と考え合わせると、桃花原古墳の石室は五輪塔をつくるための石材を得るために壊されたとも推測されます。



前庭部全景(南東より)



前庭・通路部(北より)

いずれにしても、今回の調査により徐々にではありますが、羽生田地区の古墳時代終末期の様子が解明されてきました。

来年度は、石室の残存状況の調査を行う予定です。

(壬生町教育委員会 君島 利行)



桃花原古墳全景(南側上空より)



杏葉出土状況



調査区全景(南側上空より) 中央前庭部

下野国分寺跡(国分寺町)

国分寺町では平成11年度から史跡整備に伴う発掘調査を進めています。これまでに寺院の中心である金堂、中門、回廊の調査を行ってきました。今年度は講堂跡、経蔵跡、鐘楼跡の調査を行いました。

推定経蔵跡・推定鐘楼跡

経蔵跡・鐘楼跡とも建物跡の上面の調査を行いました。経蔵跡の礎石はすべて抜き取られており、1カ所も確認することができませんでした。鐘楼跡では12カ所の礎石のうち8カ所の礎石を確認することができました。礎石の位置から、これらの建物が東西2間(柱が3本で柱と柱の間の壁が2カ所)×南北3間(柱が4本で柱と柱の間の壁が3カ所の建物)の南北に長い建物だったことが判明しました。柱と柱の距離は3m(10尺)の等間隔であったことも確認できました。出土遺物は大量の瓦のほか、推定経蔵跡からは像高約6.3cmの金銅製毘沙門天像も出土しました。また、落下瓦の下層から多くの炭化物が出土することから、推定鐘楼跡は焼失した可能性が考えられます。

講堂跡

講堂跡は、金堂跡同様に地膨れ状に残っており、基壇の保存状況は良好と考えられました。10cm程度表土を除去すると基壇(版築層)の上面を確認することができましたが、基壇の外装のために使用された床石、羽目石、地覆石はほとんどすべてが抜き取られており確認できませんでした。礎石もすべて抜き取られていましたが、抜き取り痕から、東西7間×南北4間の建物跡であることが確認できました。柱間は、桁行が10尺等間、梁間は南から10尺・11尺・11尺・10尺と推定され、基壇規模は東西84尺(25.2m)・南北56尺(16.8m)と考えられます。南面階段も他の基壇外装同様に抜き取られており確認できませんでしたが、抜き取り痕から推定して、中央間1間分(10尺幅・約3m)だけと考えられます。金堂跡の階段が3間(約12mの幅)に分かれていたのに対し、講堂跡の階段の規模は小さかったと考えられます。床石は数点しか残っていませんが、一辺約30cm四方の大きさで断面が台形で、大きい面を上にして床石に使用されたことがわかりました。また、これらは金堂の床石と同じ大きさであることも判明しました。

(国分寺教育委員会 山口 耕一)



講堂南西隅地覆石抜き取り痕と瓦列(北から)



推定鐘楼跡全景



推定鐘楼跡出土礎石(西から)



推定鐘楼跡調査風景

那須小川古墳群が国指定史跡となる

私たちの周辺で数多く見かける「遺跡」は、国や県などの指定化によって「史跡」となり、保存のために公有、整備、活用を図っていくことになります。

栃木県には、国の指定した史跡が全部で31ありますが、その10分の1を占める3史跡が小川町内に所在します。

町内の3史跡は、東日本の古墳として最も古い時期に築造された駒形大塚古墳、奈良から平安時代の400年以上那須郡を統治した役所跡である那須官衙遺跡、那須官衙遺跡以後この地域を中心とした東国武士の居館で那須与一誕生を伝える那須神田城跡など今から1700年前から一千年の長きにわたり、日本を代表する歴史が当町を舞台として繰り広げられていたことを雄弁に物語っています。

今回の国指定化は去る平成14年12月19日の官報により告示され、正式に国指定史跡となりました。

史跡の名称は『那須小川古墳群』であり、史跡の

対象は、大字吉田、小川地区にある那須八幡塚古墳や吉田温泉神社古墳など全国で最も分布密度の高い前方後方墳とこれらの周辺に築造された21基の方墳と、すでに指定されている駒形大塚古墳を合わせて28,000m²に及びます。

古墳群の諸特徴としては、次の点があげられます。

- ①権津川の中下流域に分布する古墳群を県内で初めて包括的に指定したものであること
- ②古墳時代前期(今から1700年前頃)の100年間に同流域にたて続けに前方後方墳、方墳という同形の墳墓のみが築造され、それらが全て国指定史跡として網羅されること
- ③全国で初めて発見された死から埋葬までの最後の別れの場である「もがり」と想定される建物が含まれること
- ④ここから出土した2面の中国鏡は日本での最東限出土例で、栃木県内ではこの古墳群のみしか認め

られないことなど全国的にも重要なもので、他地域に例を見ないものとして注目されています。

今後、私たちの祖先が築き上げたかけがえのない『財産』を私たちの子孫へ大切に守り伝えるという責務に答えていきたいと考えます。

(小川町教育委員会 真保 昌弘)



新たに指定された那須小川古墳群



古墳群内より発見された“もがり”の跡



もがり内の祭壇から立ち並んだ状態で出土した土器

にしあかぼり いせき
西赤堀遺跡

現地説明会資料

2002年11月16日(土)

北関東自動車道建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査
栃木県河内郡上三川町西汗

(財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
栃木県下都賀郡国分寺町大字国分乙474
TEL 0285(44)8441(代)

はじめに

西赤堀遺跡は、上三川町の中心部から北に約6kmの宇都宮市との境に位置します。本郷台団地の造成時などに行われた調査では、大規模な掘立柱建物跡群や古墳、奈良時代の墳墓が確認されています。また、西には、笹塚古墳群や奈良時代につくられた東山道跡、南西約6kmには河内郡衙跡と推定される上神主・茂原遺跡など、周囲には多くの遺跡が存在しています。

このたび、日本道路公団が北関東自動車道を建設することになり、工事に先立って、埋蔵文化財センターが今年(2002年)の4月から発掘調査を行ってきました。その結果、竪穴住居跡63軒(縄文時代1軒、古墳時代～奈良時代62軒)、掘立柱建物跡2棟(奈良時代)、円形周溝遺構7基(古墳時代～奈良時代)、井戸跡5基(古墳時代～奈良時代)が確認されるとともに、古墳時代の青銅製の鏡、当時の人々が使用した土器や漆の付着した紙、紡錘車などの遺物が出土し、大規模な集落跡であることが分かりました。

今回の現地説明会で、これまでの発掘成果を広くご覧いただき、郷土の歴史や文化財に一層の関心をもっていただく機会になれば幸いです。



南上空から見た西赤堀遺跡

発掘された西赤堀遺跡（上空から）



①古墳時代の竪穴住居跡 (SI-452・南から)
一辺7m程の比較的大型の住居跡です。通常1つしかないカマドが、2つ並んで見つかりました。



②古墳時代の円形周溝遺構 (SX-400・南から)
丸く掘られた溝の底から、掘り込みが見つかります。直径6~8mのものが多いようです。



③カマドの残りの良い竪穴
この住居跡は掘り込みもとどめていました。古墳



④2つ並んで作られたカマド (SI-452・南から)
カマドの形や大きさに違いがあることがわかります。特に左側のカマドは巨大な部類に入るものです。



⑦古墳時代の青銅製の耳環 (SI-466)
竪穴住居跡を作るときに、床下に埋めたものと考えられます。耳環とは耳飾りのことです。



⑧古墳時代の鏡 (変形蕨手文鏡) (SI-376)
鏡は5世紀後半~6世紀前半頃と推定されますが、出土した住居跡は、その200年後の8世紀前半のものです。



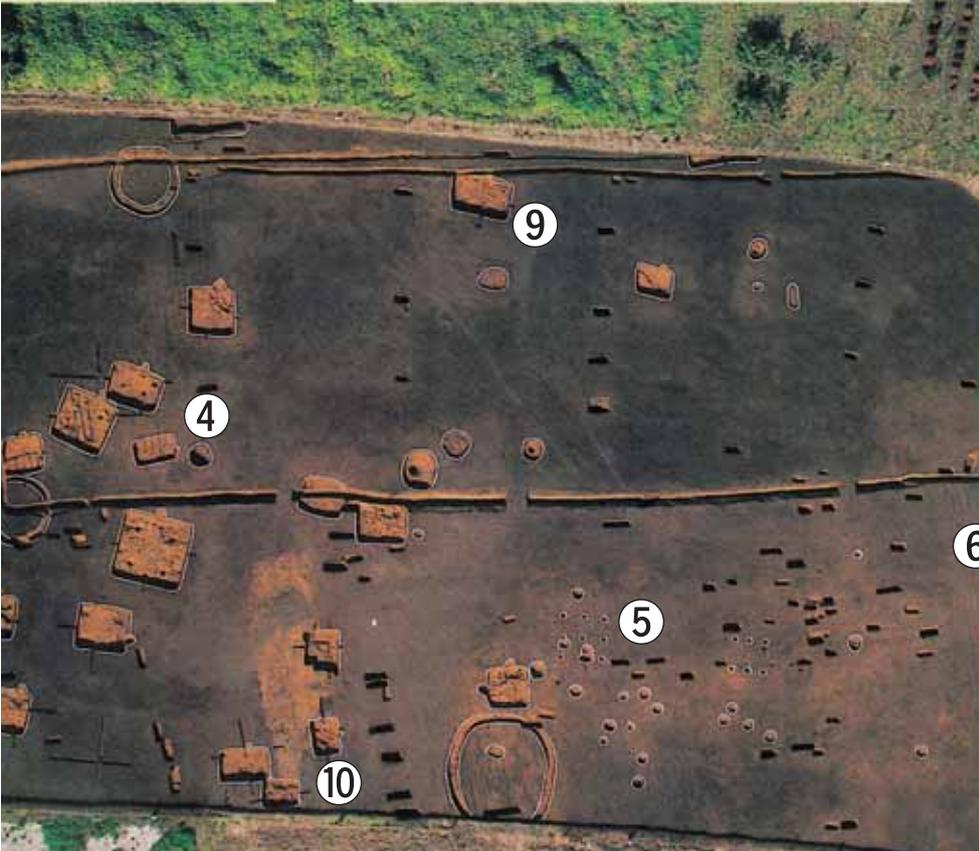
⑨奈良時代の竪穴住居
1辺8m程の大型の住居
くから、古墳時代の鏡が



住居跡 (SI-401・南から)
深く、カマドはほぼ元の形
時代後期のものです。

③天井が残っていたカマド (SI-401・南から)
カマドは主に粘土で作られています。奥の壁際には、煙
を外に出す穴(煙道)が見られます。

④井戸跡 (SE-515・南から)
井戸は、一度浅く掘り込んだ後、中央部を深く掘り下げて
いるものが多いようです。奈良時代のものと考えられます。



ほったてばしらたてものあと
⑤掘立柱建物跡 (SB-557・南から)
中央部に柱がある総柱式そうちゅうしきと呼ばれるもので、倉庫の跡
と考えられます。奈良時代のものと考えられます。



⑥縄文時代の陥し穴 (SK-445・西から)
イノシシやシカなどの獣を捕まえるために掘られたもので、
2m以上の深さがあります。



跡 (SI-376・南から)
跡で、西壁際の床面近
見つかりました。



つき
⑨坏(土師器)の中から見つかった漆紙 (SI-441・南から)
漆を入れた容器のフタに使われていた紙が、中に貼り
付いたような状態で見つかりました。



ぼうすいしゃ
⑩軸が残っていた紡錘車 (SI-435・南東から)
通常、木製の軸は腐ってしましますが、この紡錘車は
火を受けていたため炭となって残ったようです。

おわりに

今回の調査では、縄文時代の住居跡や陥し穴から奈良時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などに至まで、長い時代にわたる様々な遺構が確認されました。また、当時の生活の様子を知る手がかりとなる貴重な資料をたくさん得ることができました。

今回、発掘調査を行った範囲は大規模な集落跡の一部と思われます。調査区の東側にはいくつかの古墳が存在することが分かっており、西赤堀遺跡の全体像がさらに明らかになっていくことでしょう。



遺物がまとめて出土した様子 (SI-430北から)



体験学習の様子



発掘現場の見学風景 (SI-376)

栃木県埋蔵文化財
センター
栃木県立博物館
共催

平成14年度 発掘調査 報告会

当埋蔵文化財センターでは調査発掘した中からいくつかの遺跡について、年度ごとに報告会を行っています。平成14年度は、下記の6遺跡に決定しました。調査担当者による一般向けの解説です。スライド等を使い、わかりやすく報告致します。

日時：平成15年7月12日(土)

午前10時～午後3時

場所：栃木県立博物館 講堂

定員：200名

入場：無料

申込：県立博物館普及資料課(028-634-1312)まで

電話にてご連絡ください。

発表遺跡：1. 川戸釜八幡遺跡(栗山村)

2. 塚原古墳群(河内町)

3. 西赤堀遺跡(上三川町)

4. 砂田遺跡8区～15区(宇都宮市)

5. 彦七新田遺跡(市貝町)

6. 高島遺跡(上三川町)



編集後記

この編集後記も私にとって最後となりました。3年間楽しくもあり、苦しくもあり頭を悩ませる仕事でしたが、過ぎ去ってみれば天平の丘公園の淡墨桜や八重桜等を見ながら明日への糧として頑張れたのも、皆様方の協力のお陰と感謝しております。今年は博物館の巡回展に合わせて例年より少し遅い7月12日(土)に発掘調査報告会が開催されます。皆様ぜひ参加して遺物をご覧ください。

《埋蔵文化財センターへのご案内》

- JR小金井駅から約4km、車で約10分
- 東武壬生駅から約6km、車で約15分
- 東武栃木駅から約9km、車で約20分

編集 (財)とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター

発行 栃木県埋蔵文化財センター

〒329-0416

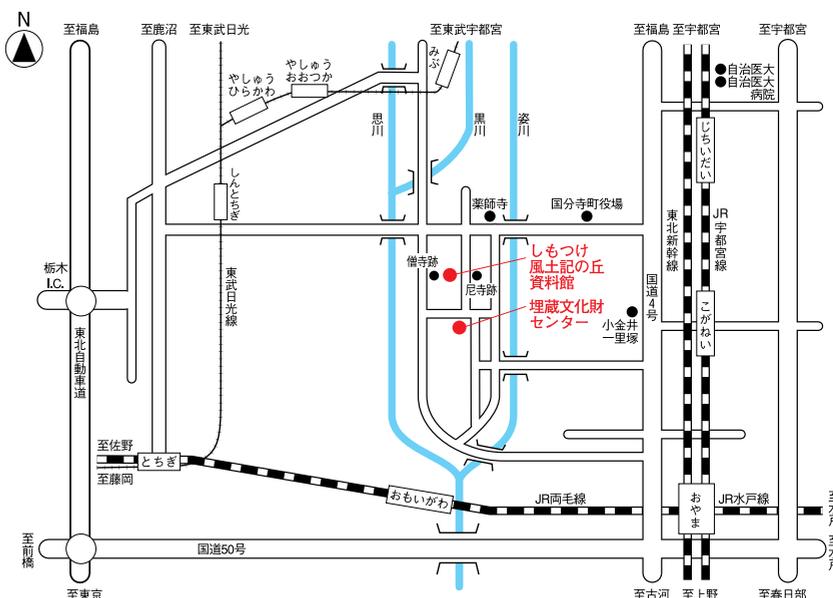
栃木県下都賀郡国分寺町大字国分乙474

TEL 0285-44-8441(代) FAX 0285-44-8445

E-mail webmaster@maibun.or.jp

URL <http://www.maibun.or.jp/>

印刷 ヤマゼン コミュニケーションズ(株)



しもつけ風土記の丘資料館・
栃木県立博物館・
なす風土記の丘資料館

平成15年度 栃木の遺跡

—最近の発掘調査の成果から—

☆主な展示予定資料

展示室のスペースや遺物の整理日程の都合により、各館の展示資料が変更になることがあります。(◎は3館共通展示)

西暦	時代	
紀元前 10000	旧石器時代	◎中根遺跡(茂木町)
紀元前 400	縄文時代	三輪仲町遺跡(小川町)
		◎仲内遺跡(栗山村)
		羽場遺跡(烏山町)
紀元後 300	弥生時代	◎堂ツ原遺跡(氏家町)
		◎へび塚遺跡(佐野市)
600 700	古墳時代 (飛鳥)	◎那須小川古墳群(小川町)
		◎磯岡北古墳群(宇都宮市)
		助戸山3号墳(足利市)
		◎桃花原古墳(壬生町)
		瓦塚古墳群24号墳(宇都宮市)
		黒尾原遺跡(南那須町)
		◎鶏権現古墳(喜連川町)
		◎西赤堀遺跡(上三川町)
		彦七新田遺跡(市貝町)
		◎下野国分寺跡(国分寺町)
1200	奈良・平安時代	◎和田窯跡(岩舟町)
		◎寺之後遺跡(田沼町)
		◎東林遺跡(石橋町)
		◎東薬師堂6号・7号遺跡(国分寺町)
		◎西物井遺跡(二宮町)
1600	鎌倉・室町時代	◎尾羽寺 多宝塔跡(益子町)
		◎唐沢山城址(田沼町)
		◎鷺城・祇園城・中久喜城跡(小山市)
		◎下高間木西遺跡(真岡市)
江戸時代	佐野城址(佐野市)	
	野高谷薬師堂遺跡Ⅲ(宇都宮市)	

栃木県では、毎年多くの遺跡で発掘調査が実施されています。それらを、出来るだけ早い時期に、より多くの方に理解して頂くため、近年調査された遺跡とそこから出土した土器資料等を、県南、中央、県北と順次、県立施設3館で巡回して紹介するものです。多数ご来場くださいまして、文化財を身近に感じ、郷土の祖先の暮らしを振り返ってみて下さい。

平成15年4月12日(土)～5月18日(日)

しもつけ風土記の丘資料館

下都賀郡国分寺町国分993 (Tel 0285-44-5049)

栃木県埋蔵文化財センター

●平成14年度発掘調査報告会

日時：7月12日(土)10:00～15:00

会場：栃木県立博物館 講堂(詳細→17ページ)

平成15年7月13日(日)～9月15日(月)

栃木県立博物館

宇都宮市睦町2-2 (Tel 028-634-1311(代))

●テーマ展展示解説

7月13日(日)10:00～15:00

平成15年9月26日(金)～11月9日(日)

なす風土記の丘資料館

展示会場：湯津上館

那須郡湯津上村湯津上192 (Tel 0287-98-3322)

●第11回企画展記念講演会

日時：10月5日(日)13:30～

講演会場：なす風土記の丘資料館小川館

那須郡小川町小川3789 (Tel 0287-96-3366)

演題：「最近の成果—栃木県内の発掘調査から」

講師：埋蔵文化財センター 橋本 澄朗氏

3館共通 利用の案内

開館時間：9:30～17:00

(入館は16:30まで)

休館日：月曜日(祝日・休日を除く)

祝日・振替休日の翌日

観覧料：博物館 一般250(200)円

大学・高校生120(100)円

資料館 一般100(80)円

大学・高校生50(40)円

※()内は20名以上の団体料金

※中学生以下は無料